

組織目標評価報告書（平成22年度）

部局名： 岡山大学病院

組織目標		達成状況(成果)
(下記2項目について、特に目標とする客観的指標がある場合は、数値データを引用して記載してください。)		
教育・研究	<p>1. 教育面としては、研修医並びにコメディカルに対する教育環境の体制整備を進めるとともに、卒後臨床研修医に対する教育プログラムの開発を目指す。</p> <p>2. 研究面においては、海外の医療機関等との研究交流・実習交流等の国際交流の機会を積極的に推進する。</p> <p>3. また、新規に設置された「新医療研究開発センター」を実行に移すべく体制整備を行い、センターの本格的業務実施を目指す。</p>	<p>1. 卒後臨床研修と専門医研修との連携を更に緊密にするため、コーディネート担当の専任助教を配置するとともに、後期研修へとシームレスに移行できることをねらいとして卒後研修プログラムを改訂した。また、事務担当職員(パート)を配置し、研修医に対する事務支援を行うとともに、研修医の受入人数増加に対応した研修医室の改修、机・椅子・ロッカー・PC等の更新・補充を行った。特に、歯科部門において、教育に活用している電子ポートフォリオの改良及びサーバーコンピューターの更新により、学習環境を大幅に充実できた。</p> <p>2. 部局間国際交流協定として、4月にはベトナムハノイ循環器センターと、12月には中国河南省洛陽市中心病院と協定を締結した。交流の実績としては、ベトナムのニンビン省への口唇・口蓋裂治療支援として歯科医師を派遣したほか、中国上海第六人民医院から看護師2名を研修生として受入れ、研修プログラムにより研修を行った。</p> <p>3. 新医療研究開発センターに、再生医療部門を新設(病院教授を配置)し、先進医療の開発推進の体制強化を図った。</p>
	達成度:	④ 3 2 1
社会貢献・診療	<p>1. 社会貢献面においては、地域医療連携体制充実のため、遠隔医療体制・医療福祉連携(岡山市との連携)を本格的に稼働さすなどして、大学病院の使命である高度で先進的医療を進める。</p> <p>2. 診療面においては、患者中心の医療に心がけ、よりチーム医療への積極的取り組みを行い、大学病院が医療における「最後の砦」としての高度で安全・安心な医療の提供に努める。</p> <p>3. また運営面においては、病院を取り巻く経営環境が非常に厳しい状況を受け止め、更なる経営改善のための効果的手法並びに効率的資源の配分等を検討し、経費削減とともに病院収入増に努める。</p>	<p>1. 医療連携機能を充実させるため、岡山県内の地域医療連携を推進する者で構成する「岡山連携実務者の会」を開催するとともに、歯科部門における連携体制の見直し・検討を進めた。また、電子カルテ情報の地域医療機関への開示に向け検討を進めており、岡山大学病院の診療情報を情報ネットワークを介して関連病院医師が参照等できる「地域連携システム」の購入・導入を決定した。</p> <p>2. 組織横断的な周術期管理を行うため、周術期管理センターを設置し、チーム医療を推進させた。また、先進医療の推進にも取り組み、アンケート調査を実施するほか、開発計画の情報収集を行うなど、先進医療の開発推進体制の整備を図った。(22年度新規申請件、承認件数1件) 医療安全マニュアルの見直しと改訂を推進し、今年度は、ガーゼカウントマニュアル、術後X線確認マニュアル、院内救急医療応援体制を改訂した。また、安全な抗がん剤投与のための院内システムとして、薬剤部での入院抗がん剤調製に取組み、平日約7割実施の実績を上げた。 医事課職員に、院外及び院内で開催される診療報酬改定に係る説明会に参加させ、改正内容の周知徹底を図った。</p> <p>3. 各種経営指標について、経営戦略会議に報告させ、適宜検証・対策を検討させた。また、MBOを実施し、あらかじめ病院執行部案を提示するなどして、年度当初に各診療科の目標を設定し、中間評価において、達成率の芳しくない診療科等について中間ヒアリングを実施した。この結果、収入額については、手術料を初めとするプラスの医療改定の影響や、看護補助者の増員による急性期看護補助体制加算(75対1)の算定等により12億円(3/1現在)増収見込みである。</p>
	達成度:	④ 3 2 1
評価の客観的指標・定義	事項	定義(抜粋)
	医療収入	病院収入額: 評価年度の前年と評価年度
	診療経費	医療費率: 評価年度の前年と評価年度
	科研費申請率, 科研費採択率, 採択金額	評価年度のデータが揃わないこと等が想定されるため、比較可能な直近3年程度の推移・傾向から判断する。
共同研究件数, 受託研究件数, 受入金額	評価年度の前年と評価年度に実施しているとして公表した共同研究及び受託研究件数, 受入金額	
【自己評価総括記述欄】※目標及び指標の達成状況について総括し、次年度に向けた改善点等を記載してください。		
<p>組織目標の達成は、全体として非常に良好であった。特に、部局間国際交流協定の締結や病院収入の増収の面で成果があった。また、今年度は、改正臓器移植法の施行に際して、シミュレーションの実施や脳死下臓器移植の実施増に対して、臓器移植医療センターを設置するなど適切な対応を執った。</p> <p>23年度は、各種センターの充実及び社会貢献面(地域医療連携)の更なる充実を図る。</p>		

【達成度】 4:非常に優れている 3:良好である 2:概ね良好であるが改善の余地あり 1:不十分であり改善を要する

注)本様式は一般的な学部・研究科用であり、部局の特性に合わせて設定した領域・指標により修正してください。